

「98みどりこどもエコクラブ98」の活動報告

私たち「宇宙船地球号の会」は98年4月より、地元のスーパーマーケット(ビッグ安古市店)・公民館と共同で、安佐南区内の小学生を集めて環境学習を行った。参加したのは小学生19名(1~5年生)。スタッフ8名(他に行事ごとのスタッフやみどりからのスタッフも有)で運営した。その報告を以下に記す。

98年度の講座は、会としても初めての小学生を対象とする環境教育事業であったが、主催者である(株)みどり、(財)ひとまちネットワーク(安佐南区各公民館)の協力もあり、好評のうちに無事、全講座を終了することができた。各講座の進行につれて内外の反響も高まり、第3回講座&第4回講座の各模様は、地元テレビ局(広島ホームテレビ)の各番組にて放映された。

8/31(月)18:30~『スーパーJチャンネル』

9/12(土)11:30~『ホップ・ステップ・ボランティア』

99年度は、「裾野を広げたい!」という山陽マックスパリュウ(株)(旧:みどり)の要望を受け、安佐南区に加えて、佐伯区の小学生を一般公募し、2店舗で活動していく予定。

資料 配布した98年度「みどりこどもエコクラブ」募集のパンフレットより

募集!

これで夏休みの自由研究は
みどり
子どもエコクラブ
1998
がバキだ!



この夏、小学生のみんなに「子どもエコクラブ」から
B/Gな自然体験をプレゼントするよ!
いっしょに地球にやさしい暮らし方を勉強しよう!

おもな内容

1. 豊平で林間学校。川や森で遊ぶのは楽しいよ!
2. 福山のリサイクル工場見学。トレイはどこへ行くのかな?
3. 宮島の海岸でごみの量を調査。海を汚すのはだ〜れ?
4. 近くの山に登ろう!近所で思いがけない自然を発見!



みんなの参加まってるよ!





★期間 7/27~12/25 (全9回)

★場所 BIG安古市店とその近隣の公民館を
主会場とする。

お申し込みは、お電話で→ 広島市古市公民館
TEL (082) 877-2677

募集定員は30人。受付開始は 7/1(水)からです。

主催: (株)みどり、(財)広島市ひと・まちネットワーク 安佐南区各公民館
企画・運営: 宇宙船地球号の会

1. 設立経過について

(株)みどり(現 山陽マックスバリュ(株))が所属するイオングループでは、95年より環境庁の「子どもエコクラブ」(小中学生の環境教育事業)の支援を行っている。「みどり」としては、広島でも自分たちが直接関わる「子どもエコクラブ」を立ち上げたいということで、その運営方法について、担当者が(財)ひとまちネットワークに相談し、本会の紹介を受けた。

協議の結果、みどり子どもエコクラブは、98年度より、県内のスーパーである(株)みどりの発案、(財)広島市ひとまちネットワークの協力の基に両者の主催事業プロジェクトとしてスタートすることとなった。そして、環境教育に大きな関心を持つ私たち宇宙船地球号の会が、本講座の企画・運営を担当することとなったのである。

2. 運営について

(株)みどりが経費を提供し、「地球号」が企画運営を行う。(財)ひとまちネットワークの仲介により、地元の安佐南区内の9公民館で募集を行い、古市公民館が窓口、安東公民館がオリエンテーションなどの会場の提供をすることになり、スタートする。

3. 内容について

本講座は、小学生を対象にして、消費者に身近なスーパーなどを舞台に、体験活動を通して環境(自然・社会)を考えてもらえるように以下のような内容とした。

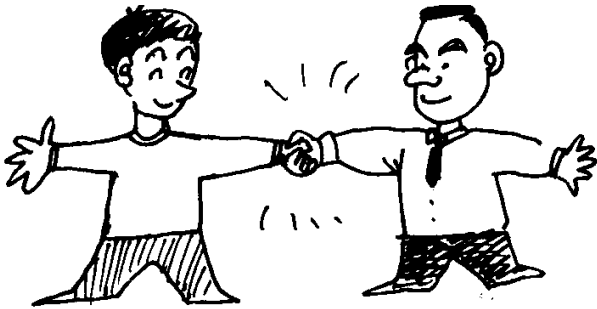
オリエンテーション、自然体験林間学校、食品トレイのリサイクルを考える、スーパーの買物客の袋持参率調査、海岸ゴミ調査、川の学習、里山の観察、生活の見直し、まとめ等。

98年度「みどり子どもエコクラブ」実施内容

回	テーマ	日時	場所	目的	内容・
1	オリエンテーション	7/27(月) 14:00 ~ 16:00	安東公民館	参加者の交流・人間関係を作る	開会行事・アイスブレイクを目的としたゲームや歌の合唱をしたり、OHPによる環境学習を行う。
2	林間学校《自然体験》	8/10(月) ~ 8/11(火) 1泊2日	豊平町共盛 集会所	豊かな自然の中での体験学習を通じて、自然感の育成を行う	山県郡豊平町共盛地区集会所を会場に、1泊2日の自然体験を中心としたプログラムを行う。主なプログラムは、沢登り・川遊び等・ピカピカ大賞(水を使わずに食器をきれいにする)・原始の火起こし・豊平のソバ打ち体験・ゴミの分別ゲーム。
3	ゴミのゆくえを追ってみよう	8/27(木) 9:30 ~ 19:00	ビッグ安古市 店 福山エフピコ	スーパーのトレイ回収の実体験とトレイリサイクル工場の見学	スーパーのトレイ回収の実体験・広島市の資源選別センター・埋立地・トレイリサイクル工場の見学。
4	私たちの生活を見てください!	9/6(日) 9:30 ~ 12:00	ビッグ安古市 店	スーパーで買い物袋をどのくらいの人が持って来ているか調べてみる。	スーパーのレジの横で、袋持参率調査を行う。
5	ビーチクリーンアップ in 宮島	9/23(水) 9:30 ~ 15:00	宮島包が浦 (宮島口 JR 棧橋集合)	海岸ゴミを拾ってどんなゴミが多いか調べてみる	宮島の包が浦において、海岸ゴミ調査やネイチャーゲーム(カモフラージュゲーム)を行う。
6	川の生きものさがし	11/08(日) 9:30 ~ 15:00	古川せせらぎ 公園	川の生物の現地学習を行う。	古川と太田川に住む生物の相違について調べ、川の汚れと生物の関係について学ぶ。
7	ドン君に会いに行こう!	11/15(日) 9:30 ~ 16:00	二葉山	里山での学習を通じて人と自然との共存について学習する	広島駅北の二葉山にて、樹木観察やネイチャーゲームを行う。
8	環境にやさしい生活を考えよう!	12/6(日) 9:30 ~ 12:00	ビッグ安古市 店	生活のあり方について考える。	スーパーの中で環境にやさしい商品を探す・包装ゴミの調査を通じて、生活の見直し学習する。
9	まとめ、環境への提言	12/25(金) 10:00 ~ 12:30	安東公民館	エコクラブの活動を振り返り、環境への提言を行う	これまでの振り返りを人形劇風にして行う。エコ・クリスマスパーティー、閉会行事

4. 仲介組織の必要性について

今回のこの行事は、「エコクラブ」を立ち上げたいという企業側と「小学生の環境教育をしたい」という私たち市民団体側のニーズが一致して実現したものである。しかし今回の事業が、仲介役となった(財)広島市ひとまちネットワークおよび会場提供と募集をしていただいた関係各公民館の協力があって始めて実現まで、こぎつけることができたということは、大変重要な意味を持っていると思われる。一般的には、企業と市民団体が日常的なつながりを持っているとはいえない広島県内の現状を考えた時、このような仲介組織に恵まれたことは、双方にとって大変なラッキーなことであった。私たちの事業に限らず、このような事業を様々な場面で今後も展開していこうとするならば、間を取り持つ組織の存在は不可欠である。今回は行政であったが、ここに行けば自分たちの要望に合う団体と巡り合えるという場が日常的にあるというのは、双方にとって大きなプラスである。



5. 課題と展望

現在、企業からは「来年も続けてほしい、できれば複数のクラブを立ち上げたい」という要望をいただいている。私たちとしても、その要望に応えていきたいのはもちろんであるが、広島環境教育をすすめていくという点でも前向きに考えていきたいと考えている。ただ、そうしたことを実現するためには、いくつかの課題があることも事実である。第一に私たちの会のスタッフ数の絶対的不足、第二に広島という地域の中でこうした社会教育の中の環境教育ができる人材自体が圧倒的に少ないということである。環境問題に取り組む団体はいくつもあるが、子どもたちを対象に行う教育というものは環境問題に対する意識や運動とはまた違うノウハウを必要とするのだということをこの事業を進める中で私たちは大いに学習した。そうしたスタッフの確保や人材の育成の必要性を強く感じる。さらに、この事業を単に私たちや「みどり」のものとしてでなく、広島における社会教育分野での環境教育の発展をどう構築していくかという視点でみたとき、この事業の将来展望も含めたあるべき姿を模索することは重要なことであるだろう。具体的には事業が終了した後に総括を行い、そ

うした展望や課題を明らかにしていきたいと思うので、ここでは現時点で反省事項として感じていることのみを二、三あげてみたい。

一点目は、非常に世俗的なテーマであるが、人件費の問題である。今回、私たちは必要経費として様々な物品や交通費を計上し、企業側にもそれを承認していただいて活動したわけであるが、人件費のことは考えていなかった。私たちのような市民団体がボランティアで行う事業でそうしたことを考えるということに後ろめたい気持ちもあったし、金儲けでするわけではないという市民団体としての自負もあった。私たちだけの場合はそれでよいのだが、今、この事業が広島ではほとんど前例のない企業と市民団体とのユニークな協力事業として、思った以上に社会的に評価され関心を持たれており、また、私たちもこのような事業を様々な団体に広げていってもらいたいと思っている現状を考えると、無償で行うということは他団体の活動にいい影響を与えないのではないかという声をいくつかいただいている。つまり「Aの団体はただでしてくれているのにBの団体は…」というような意識を生んでしまうならば、それはお互いにマイナスになるということである。また、正当な費用を受け取ることはスタッフの責任感を明確にする上でも必要であると同時に、有能なスタッフを集めるためにも避けて通れないことである。広く市民活動の将来的なあり方を考えたとき、企業との対等なパートナーシップを構築するためには、むしろその方が本来あるべき姿なのかも知れないと、現在は考えている。

もう一点は、参加者の募集方法や人数についてである。今回は前述のように公民館で募集していただき、30名の募集に対して19名の参加であった。プログラムによっては安全に万全を期さなければならないものもあることを考えると、結果的には理想の数であったように思う。ただ、どこでも今回のように公民館で募集してもらえとは限らないことを考えると、募集の仕方をもっと真剣に考えなければならない。人数については、人間関係を密にできる、屋外行事での安全面等で考えると、一つのクラブは多くて25名までであると判断している。

いずれにしても、私たち「宇宙船地球号の会」は環境問題を市民みんなで考えていくためには教育が重要であるという観点から、数年前より市民団体レベルでの環境教育に取り組んできていたが、この事業もそうした観点でより積極的に関わっていきたいと考えている。私たちの会がどうこうというのではなく、広い視点でこの事業をとらえ、発展させていきたいと思っている。